



大阪部会(第 38 回)

日 時: 2014 年 4 月 26 日(土) 18:00~20:20

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 38 回の大阪部会の出席者は 14 名。

(1)まず、経済教育ネットワーク篠原総一代表(同志社大学)から、最近の活動報告があった。先生方の開発教材をもっとネットワークHPにアップしたいと考えている点、東京、大阪、札幌の各部会で配布された資料を別途アップして、他所の部会参加者が閲覧できるようにする方針などが報告された。ついで、東京証券取引所と毎年共催している「先生のための夏休み経済教室」のプログラムが紹介された。東京では若手新人教員向けの Basic な時間がもうけられるなど、新しい試みもいくつか実施される。最後に、読売新聞社と金融経済教育のプログラムを計画していることが報告された。

(2)次に夏の経済教室で「新聞を使った楽しい経済の授業」を担当することになっている佐藤敏彦氏(茨木・彩都西中学校)からの実践例報告があった。東京でのオリンピック開催が決まった新聞記事をもとに、スポーツと経済の関係を調べ考えさせる内容となっている。あわせて、佐藤氏とともに夏の経済教室を担当する河原和之氏(立命館大学など)からも、新聞記事の使い方についてのコメントが加えられた。

(3)引き続いて河原氏から、加藤一誠氏(日本大学)らとともに日本経済教育センターで開発中の地理教材「グローバル社会を生き抜くためにーブラジルを知ろう」の紹介があった。前回のインドを対象にした教材と同様に、宗教、人種、社会、歴史などの多様な側面からブラジルを理解するものではあるが、とくに経済的な視点が多く取り入れられている。ブラジルの次には、南アフリカを対象とした教材作成が予定され進められている。

(4)李洪俊氏(長吉中学校)から、財政に関する授業教材が紹介された。まず高速道路、長吉中学校、長居陸上競技場などの費用がどれほどかかるかをクイズ形式で答えさせ、財政支出の多様さとコストの高さを実感させる。次にそれをまかなうための税の種類(国税と地方税など)を学び徴収の仕方を考えさせる。年収の多い人も少ない人もいたとき、定額、定率、累進などの課税方式によって、どれほど手取額が変わってくるかを計算させ、公正とは何か考えさせる。そして、もし地元で税金をとるとしたら、どのような取り方にするかを提案させる、という授業構成になっている。

(5)山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、中学校での金融の教え方についての疑問が投げかけられた。新しい指導要領で、貨幣(通貨)と金融の役割が強調されたため、教科書での記述も増える傾向にある。東京書籍の中学校公民の貨幣の箇所では、預金通貨という生徒には理解しにくい貨幣の説明が詳しくなり、預金通貨を創り出す信用創造の話まで加えられた。東書資料集でもかなり難しい内容まで解説されている。それに対して何人かの参加者からは、中学でこのレベルまで教えるのは難しいだろうとの意見が出された。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2014 年 6 月 21 日(土)、時間は 18:00~20:00、場所は未定。